

第14期
第12回 鳥取市校区審議会

令和2年8月11日(火) 14:00
鳥取市役所 本庁舎6階 第8会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議事録署名委員の選任 委員、 委員

4 報 告

(1) 第11回校区審議会審議概要について P1～2

5 議 事

(1) 本市の中長期的な校区のあり方について

(2) 千代川以西エリアの学校のあり方について

(3) その他

6 その他

7 閉 会

鳥取市校区審議会委員（第14期）

任期：平成30年10月15日～令和2年10月14日

区分	氏名	所属、職業、住所等	8/11 出欠
学識経験者 (9名)	ほんな としまさ 本名 俊正	鳥取大学名誉教授	出
	なんぶ さとし 南部 敏	鳥取市自治連合会（自治連合会会長）	出
	よねだ けいこ 米田 恵子	鳥取市小学校校長会（国府東小学校校長）	出
	おんだ まさあき 音田 正顕	鳥取市中学校校長会（桜ヶ丘中学校校長）	出
	うえた みつのり 上田 光徳	鳥取市小学校PTA連合会（美和小PTA会長）	出
	よしざわ はるき 吉澤 春樹	鳥取市中学校PTA連合会（北中PTA会長）	出
	かわぐち ゆみこ 川口 有美子	公立鳥取環境大学環境学部准教授	出
	やまだ やすこ 山田 康子	ゆうゆうとっとり子育てネットワーク代表	出
	ふくやま けい 福山 敬	鳥取大学工学部教授	出
公募 (2名)	うしお りゅういちろう 牛尾 柳 一郎	無職（北園1丁目）	出
	もりもと さゆり 森本 早由里	放課後児童支援員（河原町布袋）	欠

（順不同、敬称略）

事務局	なかむら たかひろ 中村 隆弘	教育委員会事務局次長(兼)教育総務課長(兼)校区審議室長
	たけた じゅん 竹田 潤	教育委員会事務局教育総務課校区審議室主幹 (兼)学校教育課指導主事
	ほりむら さとし 堀村 聡志	教育委員会事務局教育総務課校区審議室主任

第14期 第11回 鳥取市校区審議会の審議概要について

- 1 日 時 令和2年7月3日（金）14時00分 ～ 16時57分
- 2 会 場 鳥取市役所 本庁舎6階 第8会議室
- 3 出席者 本名俊正委員（会長）、南部敏委員（副会長）、米田恵子委員、音田正顕委員、上田光徳委員、吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、福山敬委員、牛尾柳一郎委員、森本早由里委員
事務局：中村隆弘次長、竹田潤主幹兼指導主事、堀村聡志主任

4 報告事項

- (1) 第10回校区審議会審議概要について

5 議 事

- (1) 本市の中長期的な校区のあり方について

本市の中長期的な校区のあり方について、答申案の文面について審議しました。また、答申の文言や付属資料等について確認を行いました。

【主な意見】

- ・答申のタイトルについて、短くネーミングした方がいいと思うので「鳥取市立学校の配置及び校区の設定について」がいいのではないか。
- ・(3) 学校運営上の課題に、「運動会、学習発表会等の規模が小さくなり、盛り上がりに欠け、みんなでやり遂げたという達成感が感じにくい。」とあるが、学校運営上の課題ではないのではないか。
- ・小規模校は行事の際に、苦勞する場合もある。こういう問題を掲載するのであれば、(2) 学級が少ないのほうで児童生徒数が少ないことによる課題を指摘したほういいのではないか。
- ・(3) の中に、「主に技術系教科において」という表現があるが、技術系教科は、おそらく人によって想定する教科が違う。具体的な教科名を列挙するなどしたほうがいいのではないか。
- ・免許外指導のことも、運営上の課題だと思うので入れておいたほうがいいのではなか。
- ・義務教育学校の通学距離について、国の基準はあるが鳥取市の基準はないので、今策定する必要があると思う。
- ・学校の規模が小さくなり、義務教育学校が増えれば、通学距離について国の基準より幅がないと通えない子どもができる。少し検討してから距離を書いたほうがいいのではないか。
- ・本市における最低限必要な学校規模の基準の表について、新しく枠を作って、義務教育学校の最低限の学級数を1校あたり9学級で児童数は前期が15人、後期が8人というふうに書いてもらったほうがわかりやすいのではないか。
- ・10-1、10-2、10-3の中で、10-1の2040年の時に小学校中学校、含む義務教育学校という形になったものいいと思った。なぜなら、メリットの中で、11ページからのエリアごとの学校に対する地域のかかわりや、今後の学校のあり方がイメージしやすいのではないかと思った。
- ・デメリットを見ていくと、10-1がいいのではないかと思う。10-2はゼロがたくさん出てくるので、学校がなくなってしまうという間違ったメッセージとして受け取られるのではないか。10-3は地域の実態に応じて検討するが多すぎて、逆にわかりにくくなっている。
- ・15ページの西2エリアについて、他に比べて「適正規模を確保するのは難しい。」で終わっている。例えば西1エリアと一緒に検討するなどポジティブな書き方にしてはどうか。
- ・各エリアに対する提言の締めめの表現がこういう書き方でいいのか疑問に思う。気を付けないといけないのは、義務教育学校は9年一貫で教育を施せる学校ということを主目的にできあがった新たな学

校種であり、子どもの数が少なくなり適正規模を確保できなくなったら義務教育学校にしましょうというメッセージは間違っても出すべきではない。

【会長総括】

答申のタイトルはシンプルに、「鳥取市立学校の配置及び校区の設定について（答申）」とわかりやすい形に修正する。技術系教科という表現がいいのか、具体的に教科名が入れられるのであれば教科名、そうでなければ技能系などわかりやすい形で考えてみたい。義務教育学校の通学距離・時間等の条件について、教育委員会としてどうするのか早く決めてもらいたいと思う。教育委員会で検討中であれば検討中と入れたい。最低限必要と考える児童・生徒数は、いろいろなことが考えられるので、市の基準を基にした形で、理解しづらい部分について誤解が無いように検討する。エリアの区分とエリアごとの学校数の目安は10-1の、含む義務教育学校という形にしたいと思う。また、各エリアの20年後の構想の最後の部分について、特に誤解のないよう表現を検討したい。

(2) 千代川以西エリアの学校のあり方について

城北小校区の千代川以西エリアを含む、早急に議論が必要な学校区のあり方について、中長期的な学校数の目安、エリア分けなどを踏まえ議論を行いました。

【主な意見】

- ・17ページの(3)に、「千代川を境界とし、児童生徒は、千代川以西の学校へ通学することが適切である」と校区審議会の見解を書いているが、期限が書いてないので、いつ頃までにこという期限を入れた方がいいのではないかな。
- ・「(4) 課題解決の例」の、このエリア全体とはどこを指しているのかわからない。どこをターゲットにしているのかという感じがした。
- ・小規模転入制度が継続するという話であれば、各地域で小規模転入制度も利用しつつ将来的な学校規模を議論する場を設けて欲しいというようなことを打ち出して欲しいと思った。
- ・中心市街地のことは、あえて5校ぐらいあるなかで3校を挙げるということはしなくても、挙げるのであればすべて名前を書いておけばいいのではないかな。
- ・「2、小規模小学校」と「3、中心市街地の小学校区」についての議論を行う組織を立ち上げるときに、今回設定した5つのエリア分けを重視したほうがいいのか、どうなのかと思う。
- ・醇風、久松、遷喬小学校区のあり方について、明德や日進は少し外れているように感じるなので、この形で書かれていることに違和感はない。

【会長総括】

中心市街地の小学校区については、エリアでの検討が先だと思うのだが、中心市街地など非常に近いので場合によってはエリアの分け方を変えていかないとイケなかったりするかもしれない。諮問事項の調査及び審議内容は(1)早急に議論が必要な学校区のあり方について、(2)鳥取市全域の中長期的な学校区のあり方についてとなっているが、これをまとめて一冊にして答申にしてまとめたいと思う。